

# 2018年の＜受難節と復活祭＞の教会暦

復活祭（イースター）は、イエス・キリストの復活を記念して祝われる教会暦の最も古い祭日です。

中世以降は、春分の次の満月の直後の日曜日を復活日として、今日に至っています。

従って、本年（2018年）の復活祭は、4月1日の日曜日（主日）になります。



受難節（レント）は四旬節ともいわれ、復活祭前の6回の日曜日（主日）を除いた40日間をいいます。受難節の始まる水曜日を「灰の水曜日」といいます。本年は、2月14日が「灰の水曜日」になります。40日間の設定は、イエス・キリストが体験された荒野の試練の40日間の断食に由来しています。

受難節の間中は、イエス・キリストが私たちの罪のために身代わりとして、十字架にかかれた御受難を覚え、身を慎んで節制につとめ、祈りつつこの世の生活を送ります。

復活祭の直前の日曜日（主日）を「棕櫚（しゅろ）の主日」といいます。本年は、3月25日が棕櫚の主日になります。「棕櫚の主日」から復活祭の前日までの1週間を受難週（3月25日～3月31日）といえます。この週にはイエス・キリストを覚え、祈りに集中します。

受難週の木曜日を「洗足木曜日」（3月29日）といえます。この日にはイエス・キリストの最後の晩餐にならない、教会では「洗足木曜日聖餐式」をいたします。翌日の金曜日は、受難日（3月30日）といい、イエス・キリストが十字架にかかれた日として覚えます。受難日にはイエス・キリストの御受難を覚えて、「受難日祈祷会」をいたします。

イエス・キリストは、十字架上に死に、葬られ、3日後の日曜日の朝早く、復活いたしました。春の訪れとともに、復活祭は喜びと賛美に満ちた教会のもっとも大切な祭日です。

毎週の日曜日（主日）は、イエス・キリストの復活の記念日として、教会に集い、礼拝にあずかり、イエス・キリストの祝福を受けます。

信濃町教会の主日礼拝には、どなたも参加できます。是非、あなたも主日礼拝に参加して、イエス・キリストの祝福をお受けください。